

## 体験談

### NICEキャンパスを受講して

五島 由起子

(長崎大学医学部保健学科看護学専攻)

私は、平成一七年に編入学生として長崎大学に入学しました。そして入学時のオリエンテーションでNICEキャンパスの存在を知り、興味を持ち、受講するに至ったのです。受講してみて、他学の主催する講義に参加できることは、視野を広げるよい機会になったと思います。NICEキャンパスでは、各大学の様々な教員や時には外部の方が講師として来られます。これは、私にとっては魅力でした。普段聞くことのできない話が聞けるチャンスだと思つたのです。

私が受講した科目の一つに「生活の質(QOL)」という科目があります。これには、看護学・栄養学の教員のほか、医療機関や介護施設などで働く方々が講義を担当されました。私自身、それまでの勉強から、言葉とその意味くらいは理解していたつもりでしたが、その言葉の示す「生

活の質」とは一体どのようなものなのか、「生活の質を高める」とはどのようなことを指すのかなど、疑問を感じながらも、深く考えたことはなかったのです。でも、受講したことにより、「生活の質」とは各個人で異なること、何が必要でなければならないというものはないことや、「幸せ」とは何なのか、また「私」がほかの誰でもなく「私」であることの意味や、同じように他者についても考える機会を頂きました。これらは、考えれば考えるほど難しい内容です。でも、考えることは決して苦痛ではありませんでしたし、むしろ考えることは今だけでなくこれからも必要なことだと思えます。

私は、卒業後に看護師あるいは保健師として働きたいとします。対象は「人」です。看護の場面でも「その人のQOLを高めるにはどうすればいいか」といったことは、しばしば課題として挙げられます。私は講義を受けて、まずはその人のことを分かりたいと思うことが必要ではないかと思うようになりました。世間一般論ではなく、その人にとつて「ということ」を……。

また受講したことで、これまでの私の視野の狭さに気づきました。これは、受講した講義内容から得たものに加え、同じ科目を受講している他学の学生から気づかされたことです。様々な学校でそれぞれにいろいろなことを勉強している学生と同じ時間を過ごすことはよい刺激になりました。



長崎大学キャンパス風景

た。互いに言葉を交わすことは少なかつたのですが、講義中での講師との受け答えやグループワークでの交流などから、同じ講義を受けている学生同士なのに、とらえ方が違うことを知りました。「そうか、そういうとらえ方もあるんだ」と納得し、そして私は意識しないうちに物事を狭い範囲でしか考えていないことに気づかされたのです。これは嬉しいことでした。自分だけでは考える限界があること、他の人に意見を求めることで新たな考えを得ることができ、それを今更のように感じることができたからです。

これまで述べたように、私はNICCEキャンパスを受講したことでも多くのことに気づき、学びました。これは、自分の所属する大学だけでは決して得られなかつたものです。いつも同じ仲間での交流、学校の教員だけでは得られないものに限界があります。恐らく自分で気づくことも少ないでしょう。しかし、自分から外に向いて勉強したり、仲間作りをするということも余程のことがない限り難しいと思います。だから、学生であるうちにこうした機会を得て勉強することは、将来にもつながるといえるのではないのでしょうか。私としては、もっともつとこのようなコーディネートネット科目を開催してほしいと思います。もつといろいろなことを知りたい・考えたいと願う学生は多いはずです。そのような学生にとって、このNICCEキャンパスの存在は魅力あるものになると思います。

## NICCEキャンパスと自分

森本 裕子

(長崎大学医学部保健学科看護学専攻)

長崎大学に編入学し、大学での生活について説明があった頃、NICCEキャンパスの話がありました。長崎県特有の取組で、単位交換ができるという制度です。そのため、長崎大学内だけでなく、他の大学でも授業が受けられるというところで、大変興味を持ちました。長崎県には、長崎大学以外にもいくつもの大学があります。しかし、他の大学の授業については、話を聞くことしかできず、実際に授業を受けることができるということはなかつたからです。

私は、以前より英語に興味があり、大学では英語について勉強したいと考えていました。特に英会話に興味があり、在学中に短期留学をしたいと思っていました。しかし、編入学の場合、教養の部分の単位は認定されていたため、英語の単位は認定されてしまいました。そこで、NICCEキャンパスの中で、英語の授業はないかと探してみました。NICCEキャンパスの英語の中で、英会話についての授業がありました。教養科目ではなく、専門科目でしたが、科目内容として、「英語によるコミュニケーションが必要と

される海外旅行のさまざまな場面を想定し、実践的な英語能力を養います」と書いてあり、大変興味を持ち、受講しました。

実際に授業が始まりました。授業の内容としては、実際の旅行場面が設定されており、それに応じたリスニング問題が設定されており、場面ごとの重要な英文は、英作文まで行いました。受講当初は、久々に英文を聞いたため、全然内容が把握できませんでした。しかし、家で問題を解いて、授業で答え合わせを行いながら進める形式だったので、リスニング問題は自分で納得がいくまで聴き直し、授業準備を行って授業に臨みました。講師は積極的に英語で授業を進めていき、また、テキストを用いて授業が行われていたので、しっかりと復習ができました。その結果、リスニング問題や授業中の英語を徐々に聞き取れるようになり、英語に対する抵抗感もなくなっていました。

また、試験とは別に課題に取り組みました。課題では、実際に海外旅行での場面を設定し、その中で、どのようなことをするかについて計画する課題が与えられました。そのため、私が行きたかった、ドイツニーワールドへの旅を計画しました。計画する中で、現地の状況やアトラクションについても調べることで、それらを知ることができました。また、計画を立てる中で、今後、旅行の計画を立てる時にはどのような方法で調べたらよいかも分かり、よい経



### NICEキャンパス長崎シラバス表紙

今回、NICEキャンパスという、他の大学で学べるすばらしい機会に参加し、視野を広げることができ、さらに自分が成長できて、本当によかったと思います。

授業で学んだことを実際の旅行で活用し、さらに、英語で会話することへの興味を深めることができました。その結果、英語を通して、他の国の人々と意思伝達ができました。生活習慣や母国語が違っていても、英語という共通の言葉を使うことで、お互いの意見と伝達することができ、すばらしい体験ができました。

現地に着いた時は、自然な形で英語を聞くことができました。

験となりました。

授業が終わり、春休みに、実際に海外に三週間行く機会がありました。国際ワークキャンプに参加したため、現地の人や他の人とすべて英語を用いてコミュニケーションを行いました。理解するのは難しかったのですが、だいたいの英語を聞き取ることができました。また、授業で学んだ

場面では、授業場面を思い出して、授業と同じように自然に発音できました。また、伝えようとする意思を示せば理解できると学んでいたもので、積極的に話しかけることができました。さらに、空港での入国審査や飛行機内でのアナウンスでは、授業で学んだことが非常に役に立ちました。また、定期的に、英語を聞いたり、話したりしていたので、